



2種類の褒め方で心のエネルギー（自己肯定感）を育む

～あなたがいてくれるだけで嬉しい～

校長 吉満 ふくみ



木枯らしに舞う落ち葉が冬の訪れを感じさせてくれるこの頃です。今年も残すところあと1週間ほどになりました。この2学期、保護者の皆様や校区の皆様を支えられて、安城っ子は大きく成長しました。心より感謝申し上げます。様々な学校行事やPTA活動、教育相談等にも御都合をつけて参加いただき、誠にありがとうございました。3学期も子どもたちが大きく成長するように職員一同で支えていきますので、事故や感染症などに気をつけられて、よい年末年始をお過ごしください。



【安城港に昇る朝日】

さて、子育ては「子供のよいところを見つけて褒めるのが大切である」とよく言われます。皆さんは、お子さんがテストで百点をとって帰ってきたとき、持久走で1番だったとき、どのような言葉をかけますか。たいていは「百点だったの。よくがんばったね。」「持久走1番だったね。すごい。」という褒め方をすると思います。これは一見、適切な褒め方のように思えますが、その裏には「百点だったから」「1番だったから」褒めるという結果主義が見えます。そうやって褒められてきた子供は「百点でなければ(1番でなければ)嬉しくない」というこだわりが強くなり、そこに至る過程を楽しめなくなる可能性があります。

一人一人の子供が同じような努力をしても、全員が同じような結果になるとは限りません。その結果が満足いくものであってもなくても、そこに至るまでの過程を十分に認め、褒めることが大切です。特に結果が良かった時などは、ついその結果ばかりを褒めてしまいがちになりますが、そういう時にこそ、そこに至るまでの過程を認めることを大事にしたいものです。

また、子供の褒め方には2種類あります。一つは、前述したような、子供の行動を褒めることです。つまり、子供がやり遂げたこと、努力したことを認めることです。もう一つは、子供の存在そのものを褒めることです。これは、特に何かをしなくても褒められる、存在するだけで褒められるというものです。どちらの褒め方も大切ですが、御家庭で特に大切にしていきたいのは後者です。なぜなら、「あなたがいてくれるだけで嬉しい」ということを伝えられるのは、家族の他にあまりいないからです。けれども「存在そのものを認める」ことは、分かっているにしても日常ではあまり子供に伝えていないのではないのでしょうか。「わたしは存在そのものを認められている」と子供が実感できると、長所も短所も併せもった自分を「価値ある人間だ」という自己肯定感(自分のことを好きだと思える感情)が高まります。各種データによると日本では「自分が好きだ」と自信をもって答える子は、諸外国に比べてかなり低く、小学生でも同様の傾向があります。どんな子にも必ずいいところがあります。「自分もやればできる」「自分は誰かの役に立っている」「自分もいいところがある」といったことを子どもに実感させることで自己肯定感は育まれます。小さな自信を積み重ねることで、そのエネルギーがどんどん蓄積され、子どもを大きく成長させる力の源泉になっていきます。そして、自己肯定感をもてた子は、自他の違いを理解し、認め、他者を思いやることもできます。成功や優劣に関係なく「あなたは、あなたのままでいい。ここにいてだけで十分よ。」という温かいメッセージを、安城のみんなで子供たちに届けていきましょう。



【咲き始めたパチュニア】
花言葉…心のやすらぎ

「あなたたちがいて学校に来てくれるだけで大きなプレゼントだよ。」これは、二学期最後の全校お楽しみ会時、サンタ帽子を被り、かくれんぼをしている子供たちに、私から伝えた言葉です。掃除時間に私に「ぼくから校長先生にプレゼントする物はないんですけど。」と言った子供にも同じように返しました。御家庭では、通知票(のびゆくすがた)を持ち帰る子どもたちに対して、褒めるところをたくさん見つけて、抱きしめて、いつもより多く話をしてみてください。

